



早春の川辺にて

（大字本郷地内）

草木が萌え出す前の弓立山。薄紫色の春を待つ風情に心惹かれる。

この絵は本郷の川北橋から眺めたものだ。

近代絵画の父と言われるセザンヌは、故郷のヴィクトワール山を水彩・油彩を合わせると80点以上も描いているという。引き合いに出すのもおこがましいが、自分にとっての弓立山は、何度も描いてみたい故郷の山である。



【編集後記】「二十歳を祝う集い」の撮影に行ってまいりました。昔は成人式でしたが、成人が18歳となった現在、式は「二十歳を祝う集い」に引き継がれました。何歳でも、年を重ねることができたのは目出度いことなので、いくらでもお祝いがあっても良いとは思いますが、町からお祝いがあるのは、7歳、15歳、20歳、77歳、88歳、99歳、100歳です。20歳を迎えた、または迎える皆さん、おめでとうございます。次のお祝いは77歳です。え、もしかして人生なんて、あっという間？【保坂】

